

# しろぢどり



第 69 号

2011 年 11 月 日本野鳥の会三重

[http://www.geocities.jp/sirochidori\\_mie/](http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/)

# 海蔵川と野鳥

尾畑玲子（四日市市）

北勢地方を流れる川のうちではいくらかマイナーな二級河川である海蔵川のお話をします。

## 1. 海蔵川について

名前の由来は江戸時代から河口付近に海産物の倉庫（蔵）が設けられており、このことから海の蔵の名がつけられたと言う説がありますが、現在では倉庫らしい形跡はまったく見られません。

鈴鹿山脈の裾野、三重県菰野町千草に源を発し、朝明川の水を導水して水量を増やし、四日市市にはいり、さらに竹谷川と合流して霞ヶ浦で伊勢湾に達する全長 18.7 km の二級河川です。源流地がすでに山裾にあり、流れは緩やかで大きな岩がごろごろしている風景はみられません。

現在 15 の堰（平均するとおよそ 1 km 毎）があり、海蔵川の水は農業用水としての役割が大きいことが理解できます。

## 2. 海蔵川の環境

**上流部：** 菰野町という地名からも推測できそうですが平坦で水で潤っていたことでしょう。ちなみに潤田（うるだ）という地名の地区を流れています。上流部の周辺は見通しがよく、ほとんど水田地帯でその周りに集落がちらばっています。川幅は数mと狭く両岸は 3m 程度の高さの護岸がほどこされています。環境庁の指針による「きれいな水」にすむカワゲラ、ヘビトンボ、などのほかサワガニや川の上流部に住む希少種魚類が見つっています。

**中流部：** 四日市市に入ると水田地帯に住宅地が混じり、次第にこみあってきます。40 年ほど前に改修された護岸はすっかり植物に覆われ一見自然の堤防のように見えます。土手にはメダケ、ヤナギ類、アカメガシワ、モウソウチクなどの雑木や雑草など自然の植生に覆われています。ヤナギ類、シイ、ムクノキ、タブノキなどの大木が水面に覆いかぶさり、緑の陰を写す光景が見られます。中流部以上ではとくに人工的な植栽はされていません。水の中を調べると、水生昆虫、魚類の種類は豊富で、希少種も見つっています。川沿いに周辺を見渡すと、水田、丘陵地、遠くには御在所岳、鎌が岳、釈迦が岳、竜ヶ岳、藤原岳といった鈴鹿山系の山脈が肩をならべ、冬季雪をいただく風景はまさに鈴鹿アルプスです。中流部の川幅は 10m 以上に

なります。流れの蛇行は一部を残して直線に近く改修されていますが、中洲や、寄り州、小規模のワンドが形成されているところもあります。代官橋の中洲はよく発達していましたが平成 12 年ごろから可動堰や護岸などの工事の影響で水位が上昇したため、衰退しつつあります。加えて代官橋付近では豪雨の影響で中洲のヤナギ類が倒れ、撤去されたため中洲は最大時の 10 分の 1 くらいまでに小さくなりました。このため野鳥の休憩所としての居心地は悪化しています。中洲に生育する植物は種類が多くその多くは湿地性のものであり、希少種もふくまれています。中流部の水質は「少しきたくない」の位置づけですが、魚類についてもそれなりの希少種が見つっています。アユカケ、アユなどは魚道をもたない堰に行く手をはばまれ遡上できません。

---

---

### 目次 しろちどり 69号

---

---

海蔵川と野鳥	1
雲出川河川敷コアジサシ観察記録	6
事務局だより	12
野鳥記録	14
探鳥会報告	17
編集後記	19

### 表紙のことは = モズとコブシの実

キキキッと高鳴くモズの声には  
郷愁を誘うひびきがありどこか切ない。  
庭の木にトカゲが刺してあった  
一夜干のイカが美味なように  
そんな百舌も案外グルメなのかも・・・

小野新子



ムクノキ



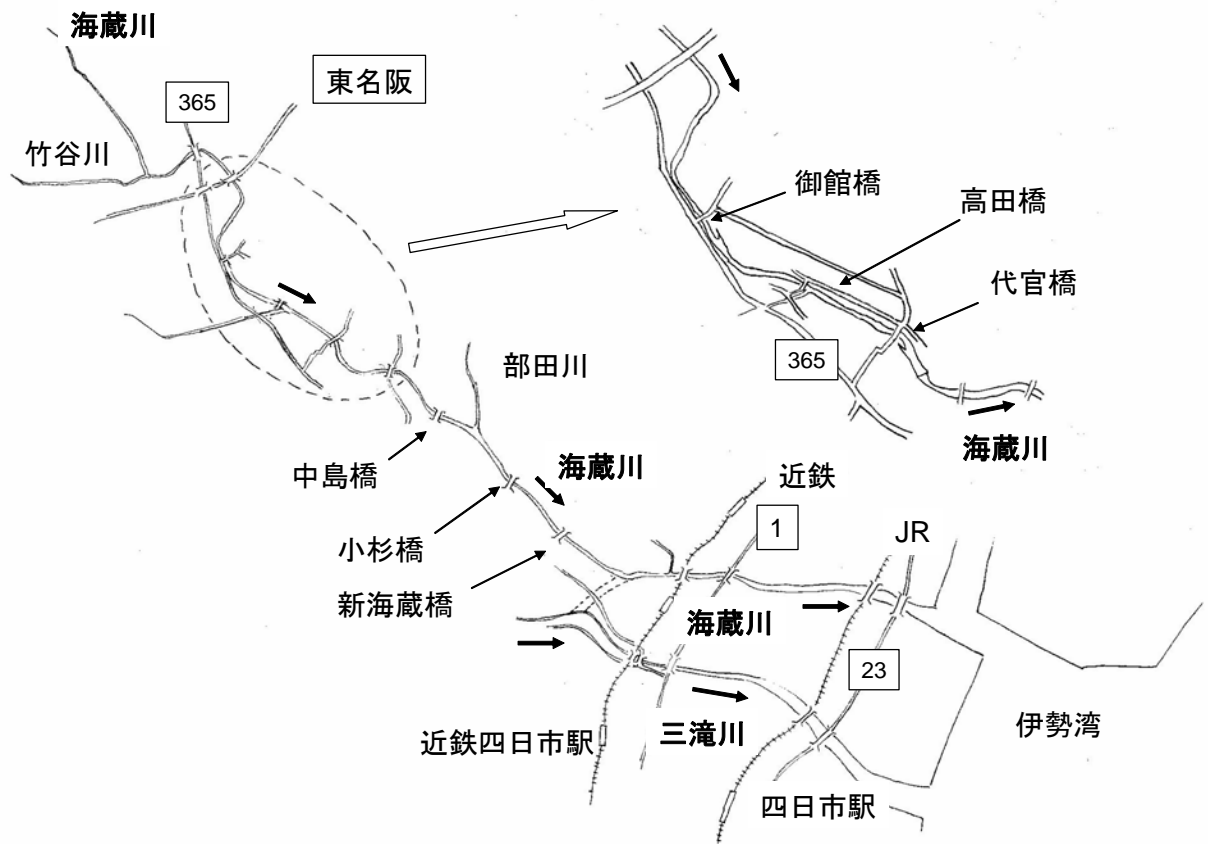
海蔵川の環境 (御館橋付近)



御館橋湿地

**下流部：**川は市街地を流れ、国道1号、23号、近鉄、JRなどの幹線をくぐり伊勢湾に至ると河口部は両岸に霞ヶ浦工業地帯、中電、コスモ石油などが占めるようになり、自然海岸はありません。左岸は市街地を隔離し保護することも兼ね、野球場、多目的ドーム、競輪場、プールなどを備えた霞ヶ浦緑地帯があります。

近鉄の車窓からも見える有名な桜並木はここから少し上流にあり、河川敷は公園化されていますが、一旦足を滑らせると這い上がることが困難な嚴重で危険な護岸が施されています。流れがゆるやかになり、水底にヘドロがたまり、干潮時には悪臭を放っています。



海蔵川とその周辺



代官橋よりの景観

### 3. 川と人

昔から川のまわりには人が住み着いてきました。人の生活は川（水）と深く関わってきています。海蔵川も同様にこの地域の社会的、経済的基盤となっています。現在、漁業権は設定されておらず、漁業は行われていませんが、釣りや川遊びに訪れる人は見かけます。しかし護岸のために水辺に下りることは難しく、かつ危険なので子供には寄り付きにくいところとなっています。

### 4. 治水と三重県の行政

海蔵川は二級河川なので三重県の管轄下にあります。昭和 16 年から河川整備計画による治水のための改修工事が河口部から現在西坂部の代官橋あたりまで完了しました。下流部では市街地に人口が密集していること、近年の気候の変化による災害などを考慮してあらたに治水の必要が迫られており、計画以上の新たな改修が進行中です。一方、上・中流部でも溢水を繰り返す場所があり今後の整備計画で考慮すべきところとなっています。野鳥の会会員として 10 年以上県と交渉を続け、改修工事や中州、堤防の改修時には提言してきました。しかし、いまのところ従来の改修方針が変わる話は聞いていません。

### 5. 国土交通省による北勢バイパス計画

御館橋付近は海蔵川中流でもっとも環境が複雑で生物相の豊かな川の姿を呈しています。しかし、ここに北勢バイパスが通過する計画があり、工事は数年後に迫っています。2005 年には市民活動団体である海蔵川探検隊・うみくら（元代表：尾畑玲子、現隊長川瀬裕之）を立ち上げ、この場所に生息する生物を中心とした環境の調査を始め、調査の結果を踏まえて環境を守ることの大切さを人々に伝えるよう普及に努めてきました。



ササゴイ



チュウサギ

そして国土交通省北勢国道事務所に出向き、環境を守るための提言を行っています。しかし、当局が問題にしているのはそこに生息している「イチョウウキゴケ絶滅危惧種」（三重県レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類 VU）の保護であり、橋が通過することによって起こる環境破壊の修復にどれほどの成果が期待できるのかは疑問です。北勢バイパスに反対するわけではありませんが、これまで全国で多くの道路工事、河川改修、大規模開発によって貴重な自然を破壊されています。同じような自然破壊の結果を招くことは厳に避けなければならないと考え、今後も監視し続けていきます。この海蔵川に限らずほうっておけば今後もいたるところで生物の生息環境が狭められることでしょう。

### 6. 海蔵川周辺の自然と野鳥

**野鳥の観察ポイント：** 野鳥の会で行っている海蔵川探検隊では西坂部町内の代官橋から右岸を上流に向かい高田橋を渡って左岸を戻ってくるコースを取っています。このコースを歩けばおおむねこの近辺の野鳥のほとんどを見ることができるといってよいほど充実しています。欲張るならさらに上流へ向かい農地を巡りながら戻ってくるとよいでしょう。源流となる千草地区は御在所、国見岳、釈迦が岳などの鈴鹿山脈の麓です。山地に、流域の農地に、流域の丘陵地帯に、市街地に、とさまざまな環境にすむ鳥類がこの川にやってきます。餌場、水場、水浴び場、休息の場、そして繁殖の場で野鳥を愛する私たちを楽しませてくれます。その結果オオタカを頂点とする生態系を構成していることは海蔵川の大切さを物語っているといえます。猛禽類はほかに、ハヤブサ、チョウゲンボウ、ノスリが餌場としており、ときにはハイタカ、ミサゴのすがたを見かけたことがあります。水場があるということは、留鳥も夏鳥も冬鳥も、そして通過してゆく渡り鳥の重

要な場所となっていることは言うまでもありません。希少種のヒクイナの繁殖例があります。タマシギの子連れも見ました。カワセミ、ケリ、スズメ、ムクドリ、ホオジロ、ハシボソガラス、ハシブトガラスは常連さんです。

1年間の野鳥を追ってみると、

### 春

海蔵川での春一番乗りはツバメです。やがて居残っていたカモ類が姿を消し、ツグミが去るとケリのけたたましい威嚇の音が繁殖の季節を告げます。あちこちで、ホオジロ、スズメ、ツバメ、ハシボソガラスの幼鳥の姿が見られるようになります。春から夏にかけてはサギ類の餌場として川、水田が利用されるので、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギ、ササゴイがやってきます。

### 夏

この季節、比較的鳥類が少ないのは平野部のどこでもある現象です。ホシゴイ（星五位＝ゴイサギの幼鳥）が堤防のメダケの茂みに隠し絵のように溶け込んでいたり、ときにはササゴイも魚を求めてやってきます。あまりの暑さに水溜りで涼をとるケリやハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラスの水浴びが盛んに見られます。キジバトは土手のメダケを営巣の場としているらしく盛んに出入りします。

### 秋

夏も終わりに近づくとモズの高鳴きで秋の到来を実感します。渡りを始めたショウドウツバメ、コシアカツバメ、イワツバメにお目にかかれることもあります。南へかえる途中のノビタキが刈田の昆虫をついばむ姿をほんの一時見ることができます。移動中のヒヨドリが十羽ぐらゐの小群で北から南へ移動していきます。

### 冬

カモ類 海蔵川に可動堰ができたおかげ？と喜んでよいのか代官橋付近の水深が常時一定の深さになったためカワアイサ、キンクロハジロ、ホシハジロ、などのカモ類が来るようになりました。オオタカ、ハヤブサ、チョウゲンボウが狩りをする場面にも何回か遭遇しました。丘陵地からやってくるイカルの群れのさざめきは冬の風物詩です。ツグミは刈り取った田んぼ

におりて空腹を満たします。

偶然の遭遇もあわせると海蔵川散策中に百種以上の野鳥に出会うことができます。



ヒクイナ

## 7. おわりに

野鳥にとって憩いの場となっている海蔵川とその周辺の里地は農地を中心にして人々の生活の基盤となっていて、野鳥愛好家だけでなく付近を散歩する多くの人たちの癒しの場でもあります。このようなすばらしい海蔵川からうける恩恵を私たちは力をあわせて真剣に守りたいものです。



リュウノウギク

## 雲出川河川敷 コアジサシ観察記録

(2011 コアジサシ・プロジェクト デコイ作戦)

今井光昌 (津市)

日本野鳥の会三重 津地区 松阪地区の会員有志にて雲出川河口河川敷 (松阪市五主町) のコアジサシ調査を行いました。調査期間は2011年5月28日から2011年8月4日 (69日間) 調査名を「2011 コアジ

サシ・プロジェクト デコイ作戦」とする。「しろちどり第68号」で小野新子さんが「コアジサシ保護作戦 顛末記」を書かれています。今回は観察記録の経過と最終の結果をまとめ報告します。

なお、調査に参加した方々は石原宏、岡八智子、奥山正次、小津みゆき、小野新子、久住勝司、斎藤加代子、竹川華子、田中洋子、谷口ひろ子、中川佐恵、中村洋子、西村四郎、服部公子、前坂和子、水森和子、宮田たつ、(五十音順) と今井光昌です。

### 観察記録

2011	時間	天気	個体数	観察者	コメント
5/28	9:00-14:00	曇	100	有志16名	河川敷の清掃、草取り、デコイ(コアジサシの模型)28個を作った。2巣2卵を確認(今井)
5/31	16:10-16:40	雨	---	今井	大雨で水位が上がり河川敷を波が洗い、5月28日に確認した巣は流された。コアジサシは飛んでいたが視界悪く個体数は不明。
6/2	9:30-14:00	雨	0	有志12名	デコイの塗装を行った。 国土交通省三重河川事務所に届け出(岡、服部、前坂)
6/3	16:10-16:30	晴	0	今井	遠距離観察で詳細は不明なれどコアジサシの姿は確認できず。
6/4	9:30-14:30	曇	3	有志13名	デコイを雲出川河口河川敷(五主側)(以下営巣地と記す)に設置、草取り、清掃、営巣地に綱張り、注意喚起の看板設置。
6/5	16:10-16:40	晴	30	今井	飛翔18羽、営巣地に12羽。コアジサシはデコイに関心を示した。
6/6	10:45-11:00	晴	9	中村、岡久住、服部	飛翔個体9、1巣・卵数1(中村)
6/7	17:30-18:30	曇	40	今井	20羽ほど営巣地に降りている。5・6羽が座ったまま動かない。抱卵中あるいは産卵中と思われるが詳細は不明。
6/8	12:30-13:40 16:05-17:00	晴	100	田中、今井	13:15 ハヤブサにコアジサシ1羽が捕食された(田中) 夕刻にはコアジサシの姿が消えていた、ハヤブサの影響か。
6/9	10:30-11:30	晴	15	岡、久住 斎藤、今井	営巣地でプレゼントの魚を銜えて3羽がうろうろしていた(岡)
6/10	17:00-17:30	曇	3	今井	飛翔個体3羽、カラス3羽が営巣地をうろついていた。
6/11	10:45-11:00	曇	0	久住、今井	食べられた卵の殻が2個散乱、足跡からカラスと断定。
6/12	15:30-16:00	曇	22	田中	河口中州に22羽も営巣地に姿なし。
6/13	9:30-9:45	晴	0	中村、水森 小津、竹川 小野、谷口	コアジサシ姿なし。 夕刻も姿なし(今井光昌)
6/14	16:30-17:00	晴	3	今井	3羽飛んでいた。
6/15	17:00-17:30	晴	4	今井	営巣地に姿なし、河口中州に4羽。
6/16	9:45-10:00 (抱卵1日目)	雨	6	久住、岡 今井	1羽が抱卵していた(久住)、営巣地に2羽、奥で4羽飛翔(岡) 久住報告の同じ場所に夕刻も一つがい座っていた。(今井)
6/17	16:05-16:20 (抱卵2日目)	曇	4	今井	1羽抱卵、飛翔3羽。
6/18	9:30-10:10 (抱卵3日目)	雨	30	中川、奥山 今井	抱卵個体1羽、中州に15羽、干潟に8羽、飛翔個体が数羽、 総数25-30羽。
6/19	16:05-17:00 (抱卵4日目)	曇	1	奥山、今井	抱卵中の1羽も含めコアジサシの姿なし(奥山) 夕刻、抱卵中の1羽確認もつがいの相方の姿なし(今井)
6/20	10:00-10:15 (抱卵5日目)	雨	70	今井	干潟に約70羽。ここまで30-100羽の群れが姿を見せることもあるが 定着しない。一つがいのみ営巣を続けている。
6/21	9:30-9:45 (抱卵6日目)	晴	30	中村、小野 今井	11:45 抱卵を雌雄交代した(中村) 夕刻20-30羽が通過。 営巣地に立ち入り1巣2卵であることを確認(今井)

2011	時間	天気	個体数	観察者	コメント
6/22	16:00-16:15 (抱卵7日目)	晴	3	今井	抱卵個体1羽、飛翔個体2羽。
6/23	10:30-11:30 (抱卵8日目)	晴	2	岡、前坂 服部、今井	1巣のみ抱卵を続けている(岡)、夕刻も変わらず(今井)
6/24	16:10-16:25 (抱卵9日目)	晴	2	今井	1巣のみ抱卵を継続、他にコアジサシの姿なし。
6/25	9:30-10:30 (抱卵10日目)	晴	3	中川、今井	抱卵個体1羽を含め総数3羽。
6/26	17:30-18:30 (抱卵11日目)	晴	2	奥山正次	抱卵中1羽、18:00頃抱卵を雌雄交代した(奥山)
6/27	10:30-11:30 (抱卵12日目)	晴	3	宮田、水森 今井	営巣地に3羽うろついている。 夕刻、抱卵している1羽以外コアジサシの姿なし。
6/28	9:15-9:30 (抱卵13日目)	晴	2	今井	1巣抱卵継続、雌雄交代で抱卵を確認。
6/29	16:10-16:20 (抱卵14日目)	晴	1	今井	砂も焼けるような厳しい暑さの中で抱卵していた。 卵を温めているのではなく冷やすための抱卵。
6/30	10:00-10:40 (抱卵15日目)	晴	3	久住、岡、 服部、今井	うだるような暑さの中、抱卵を続けている(岡) 親鳥は日陰を作ってゆで卵にならないように温度管理している(今井)
7/1	16:15-16:25 (抱卵16日目)	曇	1	今井	巣のところに1羽、状況変わらず。
7/2	19:20-19:30 (抱卵17日目)	晴	1	今井	猛暑の中、変わらず卵の上に座っている。
7/3	16:10-16:30 (抱卵18日目)	晴	1	今井	抱卵中の1羽以外姿なし。
7/4	9:00-9:30 (抱卵19日目)	晴	2	谷口、竹川 小津、今井	巣の傍につがいが居た。 今年の営巣は1巣2卵で終わりそう。
7/5	9:00-10:00 (抱卵20日目) (孵化1日目)	晴	親2 雛2	今井	雛2羽が孵化。6月16日から抱卵を始め、7月5日早朝に孵る。抱卵20日目にして雛の誕生。親鳥は頻りに雛に餌を運んでいた。10:00には動くことさえできなかった雛が16:00には1・2m歩けるようになっていた。雛の成長は速い。
7/6	16:10-16:40 (孵化2日目)	晴	4 雛2	今井	雛は巣から5・6mほど歩いては親の懐に潜り込む。 親鳥は小魚を捕えてきては雛に与えている。
7/7	10:00-12:00 16:10-17:00 (孵化3日目)	雨	17	久住、岡 今井	10:00、9羽飛翔、2羽営巣地に降りた(久住)、 12:00、7羽が州に降りていた。続いて営巣があるのか楽しみ(岡) 巣の場所から孵化2日目は3mほど離れたところに窪みを掘り、3日目はさらに3mほど離れたところに窪みを掘り、雛を抱く位置を変えている(今井)
7/8	16:00-16:20 (孵化4日目)	晴	2 雛2	今井	親鳥2羽とその雛の計4羽、元気で変わらず、 他に数羽飛んでいたがグライダーの爆音で右往左往。
7/9	10:00-10:30 16:00-16:30	晴	7 雛2	服部、西村 田中、今井	親2羽とその雛2羽に変化はなし、他に飛翔5羽。
7/10	16:00-17:30 (孵化6日目)	晴	7	岡、今井	デコイの陰に雛2羽が入り直射日光を避けていた。 デコイ(コアジサシの模型)の効果はこんなところにもあった。
7/11	9:30-10:30 16:10-17:00 (孵化7日目)	晴	2 雛2	中村、小野 今井	つがい(飛翔個体1、着地個体1)、雛は分からなかった(中村) 親鳥2羽・雛2羽を確認、雛が草や段差で見えなかったりし探しづらい。 雛の行動範囲が広がり、親から10m以上離れている時もあった。
7/12	16:30-18:00 (孵化8日目)	晴	2 雛2	今井	♂が餌を捕ってきて雛だけでなく♀にも与えた。♂が♀に餌を与えるのは求愛時・産卵中・抱卵前期と文献にもあるが、このつがいでは孵化した後も見られた。今日も♀から受け取った小魚を雛に渡さず♀がそのまま食べた。こうした給餌行為を観察したのは3日目。
7/13	16:30-17:50 (孵化9日目)	晴	2	今井	孵化して3日目までは親の誘導によって巣から少しづつ離れていたが4日目から直射日光を避けるため物陰に隠れるようになった。 外敵から身を守る意味もある、これも雛が日に日に成長してる証拠。



2011	時間	天気	個体数	観察者	コメント
7/14	9:00-10:00 10:00-12:00 16:30-17:30 (孵化10日目)	晴	2 雛2	久住、服部 前坂、斎藤 今井	テリトリーに入ったカラスやツバメを追いかけてりする行為から雛は無事であると確信できた(久住) 成鳥数羽を観察するも雛は観察出来ず(服部) 夕刻の観察では家族健在を確認、雛もよく動きまわっていた(今井)
7/15	16:30-17:30 (孵化11日目)	晴	2 雛2	岡、今井	雛が走り回っていたが親は危機感がなく羽づくろいしたり、必死で餌を運んでるって感じが無い。雛は自分でなにか餌を捕っているのでは?(岡) 孵化後2・3日は雛に小魚を与えるところを観察できたが雛が元気よく歩くようになってから親が雛に餌を渡すのを見られなかった。 タイミングの問題かも(今井)
7/16	16:10-17:00 (孵化12日目)	晴	2 雛2	今井	親鳥2羽・雛2羽 状況変わらず。
7/17	15:30-17:00 (孵化13日目)	晴	2 雛2	服部、田中 今井	13日目の雛は結構しっかりした顔つきになってきた。 親が雛に小魚を与えていた(田中)
7/18	9:30-11:00 (孵化14日目)	晴	5	宮田、水森	3羽営巣地に下りていた、他に2羽飛んでいた(宮田)
7/19	8:00-8:30 (孵化15日目)	台風	—	服部	大型の台風6号がゆっくりと北上、長時間暴風雨にさらされる営巣地が気になる。台風の高波で砂州は全て水没、営巣地にも波頭が打ち寄せていた。雛たちがどこにいるのか、無事なのか、暴風雨で見ることにはできなかった(服部)
7/20	10:00~ (孵化16日目)	台風	2 雛2	服部、久住 中村	営巣地一面に砂が20cmほど打ち上げられた。キアシシギ、カワウ、ソリハシシギ、ウミネコなどがテリトリー内に避難していた。コアジサシ親子4羽も無事台風を乗り切ったようで、親が雛に小魚を与えていた(服部)
7/21	10:30-11:30 (孵化17日目)	晴	2 雛2	服部、岡	台風一過、デコイが砂に埋もれ看板も足が砂で隠れるほど、暴風雨の中、雛2羽を無事避難させた親鳥の偉大さに感動。 少し飛んだりしていたので間もなく巣立ちでしあろうか(岡)
7/22	16:40-17:30 (孵化18日目)	晴	2	今井	親2羽は確認も雛は探せず。
7/23	10:00-12:00 13:07-14:30 (孵化19日目)	晴	2 雛1	岡、今井 田中	19日~20日の台風の暴風雨を乗り切った雛2羽、台風が去った後も元気な姿が確認できていたが今日は1羽。もう1羽の雛はどうしたのか? 居場所つかめず。午前の観察では5・6mほど飛んで見せた雛が夕刻の空を2・3分連続飛翔した。孵化19日目の上空飛翔であった。岡さんも田中さんもこの日は1羽の雛しか見ることができなかった(今井)
7/24	16:30-18:00 (孵化20日目)	晴	2 雛1	今井	幼綿羽から幼羽へと換羽が進んできた。雛は今日も1羽しか見られない。もう1羽の雛は脱落した可能性が強い。 野良猫、ヘビ、カラスなどこの河川敷にも天敵はいる。
7/25	9:00-9:30 16:30-17:30 (孵化21日目)	曇	2 幼鳥1	谷口、竹川 小津、今井	成鳥1羽と幼鳥1羽確認(谷口) 夕刻の観察では親2羽と幼鳥1羽。 幼鳥は日に日にたくましさを増している(今井)
7/26	10:00-12:00 15:30-16:30 17:30-18:20 (孵化22日目)	曇	2 幼鳥1	岡、久住 田中、今井	幼鳥は雲出川の上流方向にあるいは香良洲海岸の方向に広い範囲を視界から消え去りしては戻ってくる。幼鳥が飛ぶときは親2羽も同伴飛翔。 孵化22日目でも自由に飛べるようになった。本日の最長飛翔時間は37分。 幼鳥は自由に飛べる飛翔力はついた(今井) 親が近くにいなくても幼鳥は勝手に自由に飛んだりもしていた(田中) 昨日も今日も幼鳥は夕刻は飛ばない。夕刻は飛翔しない?(今井)
7/27	13:00-18:30 (孵化23日目)	晴	0	今井	親鳥も幼鳥も姿がない。コアジサシ親鳥の威嚇がないのでミヤコドリもカラスものんびりモードでテリトリー内にたむろしている。
7/28	10:30-12:00 16:10-16:40 (孵化24日目)	曇	2 幼鳥1	岡、服部 今井	姿なく旅立ったかとデコイを片付けようと近づいたら、警戒態勢の親が頭上を旋回、カラスに猛アタック、幼鳥も戻っていた(岡) 夕刻、親子3羽を確認。昨日移動したのではと思ったがそうではなかった(今井)
7/29	16:10-16:40 (孵化25日目)	晴	2 幼鳥1	今井	親子とも健在、変化なし。

2011	時間	天気	個体数	観察者	コメント
7/30	10:30-12:30 16:30-18:00 (孵化26日目)	晴	2 幼鳥5	田中、今井	午前、干潟に幼鳥がいつもの1羽でなく2羽いた。親鳥2羽は飛んでいる。他地区で繁殖した幼鳥が営巣地を離れ来ているのだろう。夕刻、観察していた田中さんが幼鳥が4羽いると、近づいて見ると親鳥2羽と幼鳥5羽が営巣場所の波打ち際に。当繁殖地で繁殖した雛に他場所から移動してきた幼鳥4羽が合流、まだ餌(小魚)を捕ることは出来ないであろう生後1カ月前後の幼鳥たち、驚くべきことというか新発見というか親鳥は他の子供を追い払うどころか小魚を捕ってきては自分の子以外にも平等に与えていた。新鮮な感動！2羽の親鳥が幼鳥5羽の面倒をみていた。観察中親鳥は次々に魚を捕ってきて休む間もない忙しさであった(今井)
7/31	9:00-10:00 17:50-18:50 (孵化27日目)	晴	2 幼鳥3	服部 今井	干潟に幼鳥が1羽と傍に親鳥がいた。営巣地の波打ち際にも幼鳥1羽。他の幼鳥は見当たらない(服部)夕刻は猛烈な雨、営巣場所に幼鳥が3羽、親鳥の姿はなし。幼鳥3羽が飛びダイビングを始めるが小魚を捕獲することはなかった。河口は波立ち荒れ気味、狩りの下手な幼鳥では無理か、餌を与えてくれる親鳥は居ない。幼鳥たちは自力で餌を捕るしかない。何度もダイビングを繰り返していたから魚を捕ることがあるのかも、観察している間では一度として成功していなかった。これらの幼鳥3羽は当地で繁殖した幼鳥とは違い昨日の午後合流の幼鳥(今井)
8/1	10:00-11:00 16:40-18:00 (孵化28日目)	曇	1	中村、小野 岡、今井	成鳥1羽が座っていたが幼鳥の姿はなかった(中村)夕刻の観察でもコアジサシの姿はなかった。通過個体1羽だけ。
8/2	10:30-12:00 16:00-18:00 (孵化29日目)	雨	2 幼鳥1	田中、今井	昨日は見られなかった幼鳥が香良洲側の中州に親子で現れた。営巣地(五主側河川敷)を離れ、小移動しているのでしょう。当地で孵化した幼鳥は孵化29日目、長距離移動はまだ無理と思われる。
8/3	8:30-11:30 16:10-18:00 (孵化30日目)	晴	0	石原、岡 今井	午前も午後も1羽の姿もなかった。
8/4	-----	晴	0	今井	一日中コアジサシの姿がなかった。移動したと思われる。2011年雲出川河川敷におけるコアジサシの観察、8月4日調査終了
8/6					営巣地の後片付け、河川敷の清掃を有志12名にて行った。

雲出川河口河川敷におけるコアジサシの繁殖は今回が初めてではありません。最近5年間では2009年・2010年と繁殖の証となる雛は見られていないが、2007年・2008年はまだ飛べない幼い雛が観察されている。毎年、春から初夏にかけて50~100の飛来があり、河川敷に下りたり上空を飛ぶ姿が見られる。釣り人、散歩人などが営巣テリトリーを歩いたり、また近年カイトサーフィンが増えコアジサシ繁殖テリトリー上空まで凧(カイト)が侵入、コアジサシを追っ払ってしまう。当河川敷におけるコアジサシの繁殖不成功は天敵よりも天災よりも人災の影響が大きい。昨年(2010年)は河川敷を避け河口の中州で集団繁殖しました。約200羽の飛来、鳥友数人と7月10日に調査したところ36巣63卵を数えました。しかし、忘れもしない2日後の7月12日、大潮の満潮と上流で降った雨で増水、州が水没、卵は巣と共に流されてしまった(しろちどり65号)。中州では水難は避けられない。保護さえすれば河川敷のほうが繁殖場所により最適と今回の「デコイ作戦」のきっかけになりました。デコイ(コアジサシ模型)作り・設置、河川敷に流れ着いたゴミ掃除、草取り、テリトリーの綱張り、繁殖地注意喚起

の看板、カイトをはじめとするレジャー人へのテリトリー内立ち入り注意のお願いビラと現時点で出来る環境を整えました。こうして2か月以上に渡る雲出川河口に飛来するコアジサシの日々観察がスタート。デコイの効果は・繁殖期間中に台風は来ないか・釣り人、散歩の人はテリトリーを避けてくれるか・いろいろ抱えて。猛暑の観察はしんどいが今季の観察記録が来季の保護活動にきっと役立つはずです。



クスノキ

## コアジサシ1家族の観察記録写真

撮影：今井光昌



7月5日 10:00 6月16日に抱卵を始めた一つがいの雛が孵化した。抱卵20日目。産まれて3時間以内のまだ動くことが出来ない雛。



7月5日 16:00 朝10時には動けなかった雛が、夕方4時には1・2mほど歩いていた。孵化して3時間後には動けるようになる。雛の成長は速い。



7月6日 親鳥は小魚を捕えてきては雛に与えていた。雛に近づくシロチドリを追い払う。警戒と餌捕りに親鳥は忙しい。雛は巣の場所から5・6m歩いては親の懐に潜り込んでいた。



7月10日 ふたつのデコイの日陰に入り直射日光を避ける雛。デコイ（コアジサシ模型）の効用はこんなところにもあった。



7月23日 孵化19日目の初めての上空飛翔。午前の観察では5・6m飛んで見せた1羽の雛が夕刻の空を2・3分、営巣地の上だけでなく海上も飛翔した。雛の成長は早く、朝と夕でも違う。昨日の午後から雛1羽が行方知れず。



7月26日 孵化22日目 午前なんども飛翔を繰り返した。観察時間内の最長飛翔時間は37分。自由に飛べるようになった。幼鳥が飛ぶときは親鳥2羽も同伴飛翔です。写真左が幼鳥、右が親鳥。午後には親が居なくても単独飛翔もしていた。



7月30日 当日は親鳥2羽の他に幼鳥が5羽。1羽の幼鳥と2羽の成鳥は当地で繁殖した家族だけど、他の幼鳥4羽は他場所から移動してきた生後1カ月前後の幼鳥たち。まだ餌を独力で捕ることは出来ない。コアジサシの親は他の子供を追い払うどころか小魚を捕ってきては自分の子以外にも平等に与えていた



7月30日 コアジサシは魚以外にも食べる。雛は木枝の端くれも銜えている時があるが、写真の雛が銜えているのは明らかに虫だと判断出来る。1分ほど後に背を向けたので虫を飲み込んだのかどうか確認は出来なかった。食したものと判断する。



7月31日 河口は波立ち荒れ気味、水面に突っ込み、ダイビングを繰り返す幼鳥。なんと挑戦しても小魚を捕ることは出来なかった。餌捕りはまだまだ未熟。



8月2日 孵化29日目の幼鳥。餌捕りが未熟な間は親に頼るしかない。

2011年当地で繁殖成功した唯一の雛。この写真が見納めになりました。翌日、翌々と姿を見せず、旅立ったものと判断。

2011年8月4日 雲出川河口河川敷 (松阪市五主町) コアジサシ調査完了とする。2011年8月6日 看板、網、デコイの撤去、営巣地内のゴミ掃除を有志12名にて行う。



ヤマジノホトトギス

## 事務局だより

本会の活動記録 (2011年7月～9月)

- 7/17 海岸の野鳥についてのパネル製作 (代表)
- 7/21 県委託「平成23年度生物多様性 安部・七郷池地区防災ダム事業環境調査」  
完成検査
- 7/27 2013年中部ブロック会議 (三重当番) 会場候補「プラザ洞津」を視察
- 7/29 会報「しろちどり第68号」発行
- 7/29 太平洋セメント (株) の関連会社「出口組」を訪問
- 8/6 五主海岸において 有志によるコアジサシデコイ撤去・清掃作業
- 8/26 太平洋セメント(株)に対し「藤原鉦山およびその周辺次期原料山  
開発事業に係る環境影響評価準備書に対する意見」を提出
- 9/8 県へ「特定鳥獣保護管理計画の変更についての意見書」を提出
- 9/16 知事に対し「青山高原風力発電増設に関する要請」を提出

### ●今後の予定

- 11 会報「しろちどり第69号」発行
- 11 第2回理事会

## BIRDER (バーダー) 10月号の記事について訂正をもとめました

文一総合出版が発行する BIRDER(バーダー)10月号の記事について、会員から疑問の声が寄せられました。記事は「堤防から定点ウオッチング ぶらり鳥見散歩道」筆者：鳥くん (永井真人氏) の2ページ。筆者が津市安濃川河口を訪れ、出会った夫婦連れを取材し、自身の観察記録を重ねてエッセイ風にまとめたもの。

そのなかで「ミヤコドリは多いときで200羽ほど飛来するそうだ」となっていました。筆者が訪れたのが1月30日、その前日、会の有志によりミヤコドリの一斉カウントを行っており104羽記録しました。それ以前に100羽を越えたという記録はありませんでした。取材を受けたご夫婦は本会員ではありませんが、最後に日本野鳥の会三重のホームページアドレスが記載されていたことから、会員から「本会が誤った情報を認めた形になるのではないか」との意見が事務局に届きました。取材内容の聞き取りが正確だったどうかは別にして、地元の野鳥の会に連絡する少しの手間を惜しまなかったらこのような誤りはなかったはずです。そこで、事務局が出版社に対し訂正文を掲載してもらうよう申し入れたところ、次号で掲載するとの誠意ある回答をいただきました。

(事務局：西村)

=====00000000=====

## 藤原岳のイヌワシの保護

保護部

三重・滋賀県境にまたがる鈴鹿山脈では、かつて6つがいのイヌワシが生息していました。しかし、現在では3つがいしか確認されておらず、3つがいのうち滋賀県側の2つがいは近年繁殖に成功していません。三重県側で繁殖している1つがいは三重県唯一のつがいであり、しかも、繁殖の成績は良好です。なお、イヌワシは鈴鹿



山脈以西の西日本で密度が極端に低くなっており、鈴鹿山脈のイヌワシは日本のイヌワシの生息に大きな影響を与えるものと考えられます。(山崎亨 2008)、

上記の三重県側に生息するイヌワシつがいの生息域において太平洋セメント株式会社が新規に鉱山開発をしようとしています。同社は石灰石を採掘し、セメントを生産していますが、現在の鉱山の資源が近々枯渇するため、新しい鉱山を開発する必要に迫られているとのことです。これについては 2011 年 1 月に本会は財団法人日本野鳥の会(本部)と共に社長宛に開発の見直しを要請する文書を出し、新聞でも報道されました。また、愛知県支部、日本野鳥の会滋賀、奈良県支部からも同様な趣旨の文書が郵送されています。その後、奈良県支部を除く、4 者と会社側が数回話し合いを続けてきました。話し合いの席上会社側はイヌワシの保護について協力する姿勢を明言してきましたが、これと今回の鉱山開発との両立が問題となります。この開発については三重県環境影響評価条例に基づいた環境影響評価(アセスメント)を行っており、7 月に会社側から準備書が出されました。それによると当初、営巣地近くに計画していた、治田鉱区での採掘については延期するというので、本会等の主張が受け入れられました。しかし、山頂に近い山頂鉱区については、我々が懸念していたように今回の調査結果ではイヌワシの採餌場(狩場)であることが判明しました。会社側はここを開発するにあたり、山頂付近の山林を部分的に伐採し、イヌワシの狩場を新たに作り、開発で失われる狩場を補償するとしています。8 月 26 日に本会は準備書に対する意見を提出しました。この中では治田鉱区の延期については評価、歓迎する。しかし、山頂鉱区の開発については(1)採餌行動の調査手法と調査結果の解析手法に問題があり、山頂鉱区の狩場の重要性を過少評価している可能性がある。(2)山林の部分伐採による狩場創出の効果は未だ不確定な事などから、再検討を求め、「本格的な事業が始まる 2015 年までに代償措置の有効性が確認できない場合は、事業に着手すべきではない。」との意見を会社側に提出しました。また、(3)イヌワシの保護については会社内部で検討するだけでなく、保護団体、猛禽類の専門家、行政担当者なども含めた検討会を恒常的に開いて検討する必要があることも訴えました。

本会は今後もこのイヌワシ生息に関する調査を進めると共に、保護活動を進めたいと考えています。会員諸氏のご協力をお願いします。

(平井正志)



**取扱商品**  
フィールドスコープ  
双眼鏡(小型・大型)  
天体望遠鏡  
カメラ(新品・中古)  
その他光学製品各種

**取扱メーカー**  
KOWA・NIKON・FUJINON  
MIYAUCHI・VIXEN・PENTAX他

**中部地区最大の光学製品専門店**  
**TELESCOPE CENTER EYEBELL**

テレスコープセンターアイベル(株式会社アイベル)  
〒514-0801 津市船頭町3412(メガネのマスダ2F) TEL 059-228-4119  
定休日/毎週水曜日 営業時間/10:00~19:00  
ホームページ <http://www.eyebell.com> メールアドレス [eyebell@diamond.broba.cc](mailto:eyebell@diamond.broba.cc)

野鳥記録 (2011年10月7日までに報告のあったもの)

種名	記録日	個体数	場所	記録報告者	写真	備考
カラシラサギ	2011/7/22	1	津市雲出川河口	山神勝治	あり	たくさんの冠羽
カラシラサギ	2011/8/13	1	松阪市三渡川河口右岸	西村四郎	あり	注1
ミユビシギ	2011/9/1	408	津市町屋浦・豊津浦	平井正志	なし	注2
チュウジシギ	2011/9/10	1	度会郡明和町下御糸	西村四郎	あり	注3
クロハラアジサシ	2011/10/1	1	津市香良洲町	西村四郎	あり	背中淡色、翼の付け根に黒班なし
オオアジサシ	2011/10/1	18	津市香良洲町雲出川河口	西村四郎	なし	注4:
オオアジサシ	2011/10/1	34	津市香良洲町雲出川河口	今井光昌	あり	注5: 成鳥、幼鳥の混群

注1：大きさはコサギくらいで、嘴は黄色、足指も黄色でした。

注2：おそらく、今期最大。台風12号通過後の9月5日には187羽に減少していた。

注3：①タシギの特徴の肩羽の斜め線がないこと、②外側尾羽に暗色部が多いこと、で識別した。

注4：9月の22日にも同場所で確認しましたが（未報告です）、そのときは3羽で今回のとは別個体だと思います。

注5：初認は私ではありません。先着2名が観察していました。

今回、同一群あるいは同一個体と推定される報告もありますが、両方の記録を掲載します。なお、報告者は第1発見者とは限りません。また、松阪市でセイタカシギの報告もありましたが、一般的なので、割愛しました。以下に写真を掲載します。



カラシラサギ 2011年7月22日 山神勝治 撮影  
(後方はミヤコドリ)



カラシラサギ 2011年8月13日 西村四郎 撮影  
(後方はコサギ)



クロハラアジサシ 2011年10月1日 西村四郎 撮影



チュウジシギ 2011年9月10日 西村四郎 撮影





オオアジサシ 2011年10月1日 今井光昌 撮影  
(飛んでいる5羽)



オオアジサシ 2011年10月1日 今井光昌 撮影

## 探鳥会報告 (2011年7月～9月)

### ● 木曾岬干拓地探鳥会

2011年7月24日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者16名(会員8名)

カワウ(50)、ダイサギ(6)、チュウサギ(3)、アオサギ(9)、カルガモ(30)、ミサゴ(2)、チュウヒ(1)、チョウゲンボウ(1)、キジ(5)、バン(1)、コチドリ(5)、ケリ(40)、クサシギ(6)、イソシギ(5)、タシギ(1)、キジバト(5)、ヒバリ(10)、ツバメ(100)、ハクセキレイ(2)、モズ(1)、セッカ(15)、ホオジロ(1)、カワラヒワ(7)、スズメ(30)、ムクドリ(90)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(20)、ドバト(20) 計28種

木曾岬干拓地では、チュウヒが一羽、木の上で休んでいました。モズやバンなども観察できました。

### ● ねぐら入り探鳥会

2011年8月6日(土) 17:30～19:00

伊勢市東豊浜町土路 外城田川河口

西村 泉 中西 章 参加者7名(会員5名)

カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、ケリ、キアシシギ、イソシギ、カワセミ、ツバメ、ハクセキレイ、ウグイス、オオヨシキリ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス 計20種

外城田川河口の中洲に集まってくる多くのツバメを見てもらいたいと、昨年より2週間時期を早めた。けれど、パラパラとしか飛ばず少し時期的に早かったかもしれない。

ツバメは少なかったが、渡り途中のシギやねぐら入りするサギ類をじっくり観察することができた。

### ● 木曾岬干拓地探鳥会

2011年8月28日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者13名(会員5名)

カイツブリ(5)、カワウ(60)、ゴイサギ(1)、ササゴイ(2)、アマサギ(40)、ダイサギ(10)、チュウサギ(15)、コサギ(1)、アオサギ(5)、カルガモ(40)、ミサゴ(3)、チュウヒ(2)、ハヤブサ(1)、チョウゲンボウ(2)、コチドリ(2)、ケリ(6)、クサシギ(4)、イソシギ(2)、キジバト(12)、ヒバリ(5)、ツバメ(15)、ハクセキレイ(2)、ヒヨドリ(1)、

しろちどり 69号 (2011)

モズ(2)、イソヒヨドリ(1)、セッカ(15)、ホオジロ(2)、カワラヒワ(30)、スズメ(50)、ハシボソガラス(10)、ハシブトガラス(20)、ドバト(2) 計32種

まずは、ハヤブサが鉄塔のてっぺんで羽を休めていた。さらに、イソヒヨドリ、ササゴイを観察できた。木曾岬干拓地ではチュウヒも観察できた。夏の探鳥会にしてはいろいろ観察でき、楽しいものだった。

### ● 曾原大池探鳥会

(2011年9月4日開催予定でしたが、台風による大雨のため中止しました。)

### ● 白塚・町屋海岸探鳥会

2011年9月11日(日) 10:00～12:00

津市香良洲町 香良洲海岸(場所を変更しました)

石原 宏 岡 八智子 参加者12名(会員8名)

カワウ、ダイサギ、アオサギ、ミサゴ、シロチドリ、メダイチドリ、キョウジョシギ、トウネン、ミュビシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、オオソリハシシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、ウミネコ、ヒバリ、ツバメ、ホオジロ、ハシボソガラス 計19種

台風12号の通過する前までは当地のミュビシギの飛来も順調だったが、その後、海岸の環境が台風のための流木とゴミの漂着により一変してしまった。当然、当日もミュビシギは勿論、シロチドリ、カモメ類の姿は皆無。

大阪からはるばるミュビシギに会いに来た会員もいて困惑、急遽香良洲海岸の情報を得て探鳥会の場所を変更した。ここで、数は少なかったがミュビシギにも会え、他のシギ類も観察することができた。



キアシシギ

● 海蔵川探鳥会

2011年9月13日(火) 9:40~12:00

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬裕之 参加者17名(会員16名)

カイツブリ、カワウ、ヨシゴイ、ササゴイ、ダイサギ、  
チュウサギ、コサギ、アオサギ、ヨシガモ、キジ、バ  
ン、ケリ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ツバメ、ハ  
クセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ホオ  
ジロ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブト  
ガラス、ドバト 計26種

良い天気には恵まれましたが、生憎風が強い探鳥会と  
なりました。9月中旬と言うのに気温も30度近く、  
歩いていると汗ばむ陽気でした。

風が強いため鳥の出が悪いかなと思いながら始め  
ると、早速カワウが出迎えてくれました。中間点位  
のところではヨシゴイが川を横切りました。一瞬でしたが  
ここでは初見の鳥でした。モズの高鳴きも聞こえ、も  
う秋なんだな~と思う一日でした。

● 多度山タカ渡り探鳥会

2011年9月18日(日) 9:30~12:15

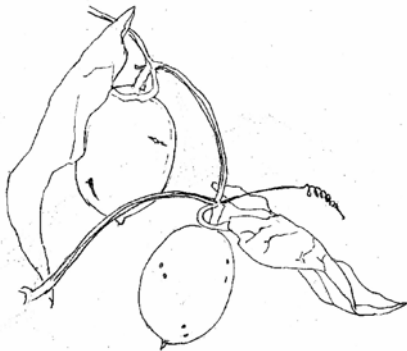
桑名市多度町 多度山

安藤宣朗 参加者14名(会員14名)

ミサゴ、トビ、ノスリ、ハヤブサ、キジバト、コゲラ、  
ツバメ、ヒヨドリ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、  
メジロ、ハシボソガラス 計13種

台風15号、16号の接近で昨日は激しい雷雨だっ  
たが、今朝はまさにタカの渡り日和で、期待しながら  
高台まで15分ほど登る。木曾三川を眼下に岐阜・一  
宮・稲沢・名古屋・伊勢湾が一望できる素晴らしい展  
望を見ながら待つこと20分、ハヤブサが山麓を横切  
った。更に40分後ノスリが上空を旋回。その後ミサ  
ゴが何回も出て楽しませてくれたが、残念ながら本命  
のサシバやハチクマの渡りを見ることが出来なかった。

今年のタカの渡りは、遅いのかも??



カラスウリ



トベラ

● 木曾岬干拓地探鳥会

2011年9月25日(日) 9:00~12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者17名(会員6名)

カイツブリ(4)、カワウ(50)、ゴイサギ(1)、アマサギ(5)、  
ダイサギ(3)、コサギ(5)、アオサギ(10)、カルガモ(25)、  
コガモ(3)、ミサゴ(4)、チョウゲンボウ(1)、キジ(1)、  
コチドリ(1)、クサシギ(3)、イソシギ(7)、キジバト(7)、  
カワセミ(1)、ヒバリ(10)、ショウドウツバメ(200)、ツ  
バメ(10)、キセキレイ(1)、ハクセキレイ(4)、セグロ  
セキレイ(1)、モズ(2)、イソヒヨドリ(1)、セッカ(2)、  
カワラヒワ(1)、スズメ(50)、ムクドリ(1)、ハシボソガ  
ラス(15)、ハシブトガラス(50)、ドバト(10) 計32種

今まであまり観察されていないイソヒヨドリが先月  
から続けて観察できた。木曾岬干拓地ではチュウヒを  
見ることができなかったが、鍋田干拓地でチョウゲン  
ボウを観察できた。

● 高見タカ渡り探鳥会

2011年9月25日(日) 9:00~11:00

松阪市飯高町 高見トンネル付近

中西 章 参加者10名(会員8名)

前日までは台風一過の秋晴れが続き期待してしまし  
たが、なぜかこの日だけは三重県中南部のみが雨。集  
合場所では雨が上がっていたので現地へ向かったもの  
の、残念ながら高見トンネル付近は雨で探鳥会を断念  
せざるを得ませんでした。この日、滋賀・岐阜では、  
前日の白樺峠5,000羽のタカのうち、かなりの数が通  
過しただけに残念です。

● 伊賀のタカ渡り探鳥会

2011年9月25日(日) 9:00~12:00

伊賀市 法花

小林達也 田中豊成 参加者17名(会員8名)  
アオサギ(1)、ミサゴ(1)、ハチクマ(1)、トビ(8)、サシバ(8)、キジバト(4)、ヒバリ(3)、ツバメ(30)、セグロセキレイ(2)、ヒヨドリ(7)、モズ(6)、ハシボソガラス(30)、ハシブトガラス(30)、コジュケイ(1)、ドバト(1)  
計15種

天候も良く観察地はサシバの渡り休息場所であり、♂・♀・幼鳥・成鳥の区別も分かり、近くの畑仕事の方とも会話しながらの楽しい探鳥会だった。



スイカズラ

しろちどり原稿募集

編集部では原稿を募集しています。鳥に関わるどのようなことでも結構です。挿絵なども募集します。

原稿は随時受付ますが、次号の締め切りは

2011年12月31日です。

原稿は、Eメールか郵送で 平井正志まで

E-mail: mhirai@aol.jp mhirai@kpu.ac.jp

送付先 〒514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

平井正志 宛

編集後記

探鳥会だけでなく、本会の活動はコアジサシの保護、河川環境の保護など多岐にわたっていることを編集を通じて感じた。コアジサシの繁殖保護には実に多くの会員が参加した。結果はたったひとつがいの繁殖であり、1羽の幼鳥が育ったことが確認されただけであったが、我々がこの活動を通じて得たものは多い。選択した場所はコアジサシに受け入れられるものであったし、デコイの有効性も確認された。観察の中でコアジサシの習性についていくつかの新発見もあった。保護活動は一人でするものではない。多くの人を力を合わせるにより成功の可能性は高くなる。野鳥の会の存在意義もそこにあるのだろう。よく考えてみるとコアジサシ自身も同じ戦略を取っている。地上で営巣するという弱点を集団で防衛することで、補っている。集団が大きければそれだけ、成功の確率も高くなる。

来年こそは多くのヒナを巣立たせたいものである。

(M.H.)



ダイサギ

しろちどり 69号

2011年11月1日発行

題字: 濱田 稔

表紙絵: 小野新子

カット: 平井正志

編集: 近藤義孝

511-0123 桑名市多度町北猪飼 521

発行所: 日本野鳥の会三重

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

[http://www.geocities.jp/sirochidori\\_mie/](http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/)

印刷: 伊藤印刷株式会社

〒514-0027 三重県津市大門 32-13